

銀 河

バイクを走らせ、僕はどこか、人のいないところを探す。見上げれば、そこに星空が広がる。夜空に浮かぶ天の川。悩む僕は銀河の一部を見ている。あの一つ一つが自分の予想もつかない大きさ。まるで外人のイチモツみたいだ。外人のイチモツを見ると、いや間違えた夜空の天の川を見てると吸い込まれるように美しく、自分のちっぽけさを感じた。自分の悩みは、この銀河に比べれば果てしなくちっぽけで、僕のイチモツから解放される悩みの数よりももっと、外人のイチモツは多くの悩みを解決できるのだろう。大きいし。

銀河とちんこ

遠くの星と近くのちんこ。
僕の悩みを聞いておくれ。
いつもありがとうちんこ。
たまにありがとう銀河。
最近ご無沙汰、以前はありがとう女体。

ちっぽけなちんこちっぽけな悩み。

銀河だったら、宇宙に行ったら、無くなるのだろうか。

宇宙の遠く、どこかの僕は、地球の誰かには見えないのだろう。

僕のちんこのミルキーウェイは、きっと誰かに見せてあげたい。

ああ、神様。実は天の川って、fromあなたのちんこじゃないですか？

あの星々にあなたのDNAがあるんですね。

みんな神様のムスコの息子。

みんな平和にイキましよう。

悩みなんてちっぽけ。忘れましよう。

遠くの銀河に僕のちんこ、悩みはカワにしまいましよう。

外国語学部
国際文化交流学科4年

荒田 恒生